No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 1月19日

株式会社 ホリデン生コン
広 島 工 場

配合計画者名　佐々木　竜治

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰの増大量	－ cm
	空気量	－ %		

使用材料

セメント	生産者名	住友大阪セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	石灰砕砂	大分県津久見下青江	A	化学法	5mm以下	2.75	2.61	2.65	7.0±2.0
	②	砕砂	東広島市黒瀬町小多田	A	モルタルバー法	5mm以下	2.65	2.56	2.59	3.5±1.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	石灰砕石	大分県津久見市上青江（2005）	A	モルタルバー法	5～20mm	6.70	2.68	2.70	2.0±1.0
	②	砕石	東広島市黒瀬町小多田　(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.62	2.63	1.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq %	1.0
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	地下水・上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
274	－	－	156	166	663	－	632	410	－	－	1.64	－	－

水セメント比	57 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.0 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　20.0:80.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更
夏期6月1日～9月30日　＋10～+20%、冬期12月11日～2月29日　－5～-15%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃	
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm	
	空気量	－ %			

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 8.0　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2.6 \cdot V}{100}} = 30.3 \ N/mm^2$$

よって　m ＝ 30.3　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　　m ＝ -18.9 ＋ 28.2 × C/W

W/C ＝ 28.2 ÷ (30.3 ＋ 18.9) × 100 ＝ 57 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C ＝ 57　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 156　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 156 ÷ 57 × 100 ＝ 274　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 274 ÷ 3.04 ＝ 90　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 ＝ 0.650 m³/m³　　実積率 ＝ 60.0　%

Gv ＝ 0.650 × 1000 × 60.0 ÷ 100 ＝ 390　ℓ/m³

G1v ＝ Gv × 60.0 % ＝ 234　ℓ/m³　　G1＝ G1v×表乾密度 ＝ 234 × 2.70 ＝ 632　kg/m³

G2v ＝ Gv － G1v ＝ 156　ℓ/m³　　G2＝ G2v×表乾密度 ＝ 156 × 2.63 ＝ 410　kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　　Sv ＝ 1000 －(W＋Cv＋Gv＋A) ＝ 1000 － 681 ＝ 319　ℓ/m³

S1v ＝ Sv × 20.0 % ＝ 63　ℓ/m³　　S1＝ S1v×表乾密度 ＝ 63 × 2.65 ＝ 166　kg/m³

S2v ＝ Sv － S1v ＝ 256　ℓ/m³　　S2＝ S2v×表乾密度 ＝ 256 × 2.59 ＝ 663　kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a ＝ Sv ÷ (Gv＋Sv) × 100 ＝ 45.0　%

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad ＝ C × 添加率 × 密度 ＝ 274 × 0.6000 % × 1.00 ＝ 1.64　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
274	－	－	156	166	663	－	632	410	－	－	1.64	－	－

水セメント比	57 %	細骨材率	45.0 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	20.0:80.0
					粗骨材①:②	60.0:40.0

備考